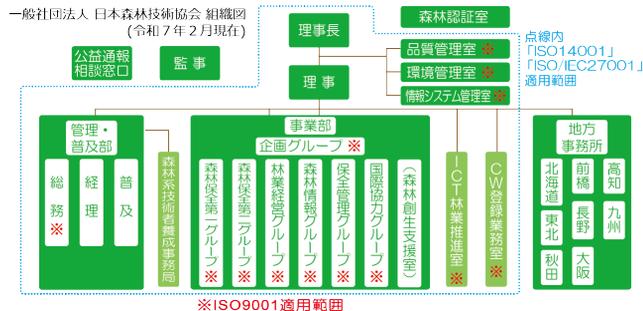


# 令和8年度新卒採用者向けパンフレット

日本森林技術協会は100年続く森林の専門集団として、  
森林から、人と社会の未来図を描く

## 組織図



## 本部所在地



## 沿革～日本森林技術協会の歩み～

大正10 (1921) 年	「興林會」として、東京都千代田区に設立。事務所を麹町区上六番町に置く。
昭和13 (1938) 年	農林大臣認可を受け、「社団法人興林會」となる。
昭和23 (1948) 年	農林大臣より社団法人日本林業技術協会の設立認可。
昭和25 (1950) 年	「林業技術協会賞」を創設・授与。 (昭和33年 (1958年) から「林業技術賞」、現在は「森林技術賞」として継続実施)
昭和27 (1952) 年	千代田区六番町 (現在地) に移転。
昭和46 (1971) 年	海外協力事業を開始。
昭和53 (1978) 年	林業技士養成事業を開始。
平成16 (2004) 年	「社団法人日本森林技術協会」に名称を変更。
平成23 (2011) 年	新公益法人法に基づく認可を受けて「一般社団法人日本森林技術協会」に名称変更し、移行したことによる登記及び設立。
令和3 (2021) 年	「興林會」の設立から100周年を迎える。

## 職員インタビュー【在職1年～3年】

### ①入社後、大学で学んだこと等を活かしていますか。「活かしている」場合にはどのような点ですか？

調査ではドローン撮影に行くことも多く、大学時代にドローン操縦していたことが活かされた。QGISやMetashape等のソフトも大学時代に扱っていたので、作業に困ることはあまりなかった。樹木についてある程度の基礎知識を学んでいたのも業務するうえで役に立った。

大学は森林・林業系ではなく、生物系の学部であったが、授業や研究室で学んだことが根底にあり、現在の業務である希少種の保全や外来種駆除に対する課題を考えられていると感じる。大学での研究テーマとは関わりの少ない部署への配属になりましたが、QGISのデータ処理や、試験データのとりまとめ方法、資料の作成方法等、大学で学んだ基礎はどの分野でも重要で、業務で活かしていると感じています。

### ②先輩・同僚と仕事の進め方や日常の悩み等、相談しやすいですか。どんな点でそのように感じますか？

相談しやすい。仕事に対する考え方は上司によって違うが、みなさん話しやすく親身になって話を聞いて下さる。仕事について悩んでいる部分を自身の考えを伝えながら、一緒に検討してくれる。こちらからも相談がしやすく円滑に業務を進めることができている。特に、タイムマネジメントに関して、細かく相談できる社風があると思います。納期までに質の高い報告書が完成できるように経験豊富な先輩が適宜フォローアップしてくれます。

### ③職場環境・業務での魅力的だと感ずる点を1つ教えてください。

ロールモデルとなる人がいることです。この人のようにになりたい！という目標は、私にとって会社で働く大きなモチベーションになっていて、その人のいいところを見習おうとすることが自身の成長につながっていると感じています。業務を通して専門的知識が身につく、様々な人と関わり合いながら新しいことにチャレンジできるところ。本社は東京だが、全国様々な地域・森林へ訪れることで、自分の知見を広げることが出来る。世界自然遺産である小笠原諸島に行き、滅多に見ることができないような希少な動植物に出会えること。

### ④今後日林協に期待することは何ですか？

生物多様性に配慮した森林管理や伝統林業の復興の後押しを期待したいです。自然共生サイトや林業遺産の認定制度の登場もあり、全国各地で地域独自の自然環境や文化的価値のある林業を継承する機運が高まっています。一方でそうしたコミュニティには生態学や林業の専門家が不在で、自然環境の価値や森林施業の効果を十分に評価できない場合があります。こうした需要に日林協の技術力が対応できるのではないかと思います。私自身、地域林業に関する講演会等で情報収集に努めていきたいです。

**私たちは、森林・林業に関する豊かな経験、知識、技術、情報を有する技術者集団です**



日本森林技術協会は、大正10（1921）年の創立以来、一貫して日本の森林、世界の森林を保全し、林業を支え、発展させるため、国内外において、国等から委託を受けるなどして森林・林業に関する幅広い調査や研究開発を行っています。

私たちの活動を継続的に強化することにより、SDGs（持続可能な開発目標）のビジョンである持続可能な社会の構築を目指します。

**技術奨励・普及事業 / 森林系技術者養成事業**



森林情報士スクーリング研修

**森林技術の奨励や普及、森林系技術者の育成に取り組んでいます**

- ◆ 優れた森林技術貢献や学生技術論文の表彰
- ◆ 役職員を各種講習会・研修会に講師として派遣
- ◆ 会誌「森林技術」（月刊）の発行など
- ◆ 林業技士（8部門）及び森林情報士（6部門）の養成、資格認定など



**林業経営事業 / 森林認証事業 / CW法登録実施事業**



木質バイオマスの森林資源賦存量調査

**持続可能な森林経営をサポートし、資源の循環利用、地域の振興に努めています**

- ◆ 「持続可能な森林経営」への技術的支援
- ◆ 地域の「バイオマスエネルギー資源」活用の提案、推進
- ◆ 登録審査機関として、森林認証（SGEC / PEFC）の審査・登録
- ◆ 登録実施機関として、CW法に基づく審査・登録
- ◆ J-クレジットの登録申請に対するサポート



**林業経営事業  
Check!**

**森林保全事業 / 保管理事業**



世界自然遺産地域の気候変動の影響モニタリング調査

**貴重な森林生態系を守り、次世代に伝える取り組みを続けています**

- ◆ 小笠原諸島、屋久島等世界自然遺産地域の森林生態系のモニタリング、希少種の保全、外来種の駆除、在来種による森林の修復など
- ◆ 猛禽類等希少野生動物種の生息状況等調査など
- ◆ 生態系に脅威を与える種の生息状況等調査、個体数調整など生物多様性保全のための取り組み



**森林保全事業  
保管理事業  
Check!**

**保管理事業 / 林業経営事業**



開発行為に伴う環境影響調査

**森林地域でのライフラインなどの整備と環境の保全との両立を図る取り組みを続けています**

- ◆ 発電施設や送電線の整備等に伴う環境影響の調査や評価
- ◆ 開発行為に伴う猛禽類等の生息環境への影響調査など
- ◆ 道路建設に伴う動物行動への影響調査、移動路整備対策など



**保管理事業  
Check!**

**森林情報事業 / 林業経営事業**



ドローン空撮による森林情報の収集

**森林に関する多様な情報を収集・解析・評価する技術を高め、成果を還元しています**

- ◆ 衛星やドローン空撮の情報を解析して行う森林の資源量・成長量等の解析や評価、各種区分図の作成
- ◆ 吸収源としての森林のCO2吸収量の把握と評価



**森林情報事業  
Check!**

**国際協力事業 / 森林情報事業**



地域コミュニティの生活向上に資する森林保全活動

**JICA等との連携の下で、〈みどりの国際協力〉を推進しています**

- ◆ 途上国がパリ協定等の国際約束を実現するための持続可能な開発計画や気候変動対応に関する政策の策定支援など
- ◆ 森林生態系のサービスの保全、回復及び持続可能な利用のための制度や計画作成、事業活動の展開など
- ◆ 森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、新規植林を増加させる取り組みなど
- ◆ 熱帯林の違法伐採監視やREDD+実施能力の強化のための支援など
- ◆ 以上の取り組みに必要な森林情報技術や森林造成技術にかかる研修員の教育訓練など



**国際協力事業  
Check!**